

事例9

< 事例概要 >

(胃瘻カテーテル交換)

- ・ 80 歳代、一過性脳虚血発作がある介護施設入所中の患者。意思疎通困難、円背あり。BMI 16.0 kg/m<sup>2</sup>。
- ・ 4 か月前、当該医療機関で胃瘻造設。初回カテーテル交換のため同医療機関外来を受診（交換前の胃瘻カテーテルはバンパー型）。
- ・ X線造影検査後、カテーテルを抜去。バンパー型カテーテルを挿入後、再度X線造影検査でカテーテル先端が胃内に留置していることを確認。
- ・ 介護施設に戻り、初回の栄養剤注入後に腹痛、顔面蒼白あり。痛みは持続、呼吸促迫、発熱、意識レベルが低下し、当該医療機関と異なる医療機関へ救急搬送。CT検査で胃瘻カテーテルを腹腔内に認め、小切開術を実施。腹腔内に大量の栄養剤を認め、交換翌日に死亡。
- ・ 死因は、汎発性腹膜炎。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。